

第13回本町田ひなた小学校新たな学校づくり基本計画推進協議会 議事要旨

開催日時	2026年1月30日（金） 9：30～11：05	
開催場所	本町田ひなた小学校 ランチルーム（ウェブ会議併用）	
	委員	渡辺委員、渡邊委員、安藤委員、黒崎委員、高柳委員、野口委員、小原委員、湯目委員、越水委員、本城委員、○隅田委員、◎清水委員、大谷委員 （◎会長 ○副会長）
	事務局	教育総務課、新たな学校づくり推進課、施設課、学務課、保健給食課、指導課、教育センター
傍聴者	0名	

議事内容（敬称略）

学校教育部長 本日は、2025年度最後の協議会となる。本町田ひなた小学校は、4月に開校してからすでに1年近くがたっている。縦割り班での活動を中心に、上の学年の子どもが下の学年の子どもの面倒を見ることで、学年にとどまらず、学校全体で仲よく、楽しく過ごしていると伺っている。

ふだんの学校生活はもちろん、開校記念式典に始まり、ひなたまつり、運動会、展覧会など、全てが第1回という様々な学校行事を通し、児童たちは、新しい歴史を自分たちが築いていくという実感と誇りを持って学校生活を送れていることと思う。

これもひとえに、本協議会において、委員の皆様が様々な課題について、子どもたちのために活発に議論していただくとともに、それぞれの立場で尽力して下さったおかげである。心より御礼を申し上げます。

本町田地区では、本町田ひなた小学校の運営がスタートしているが、2028年度には、現在建設を進めている新校舎が使用開始になるとともに、町田第三小学校が合流する。

この新たなスタートに向け、今後も委員の皆様から意見を頂戴しながら、様々な取組を進めてまいりたいと考えている。委員の皆様においては、引き続き、闊達な議論をお願いしたい。

皆様のこれまでのご尽力に深く感謝申し上げますとともに、引き続きのご協力を重ねてお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。

1 第12回推進協議会の振り返りについて

新たな学校推進課 （資料1説明）

2 報告事項

（1）通学路の安全対策について

学務課 （資料2-1-1、2-1-2、2-1-3説明）

委員 皆さんと一緒に実地踏査に参加させていただき、殊に思うのが、H、I、④のところの水路沿いの道。当初、地図で見ると、ここを通したほうがいいのではないか

という意見を私は持っていた。しかし、子どもたちの通学時間帯に合わせて実際に歩いてみると、鎌倉街道、今井谷戸方面から町田方面に向かっていく車が多くここを通る。珈琲店のところのガソリンスタンドの赤信号を回避したいがためだと思うが、次から次へと抜けてくる。もし規制ができないとすると、むしろ歩道を造ってしまうことによって、そちらに子どもを引っ張ってくるのはミスリードになるかという心配もするほどだった。交通規制ができれば前向きに捉えたい箇所ではあるが、交通規制はなかなか難しいということは伺っているため、厳しいのであれば、事前策でそこを通れるような策を打つよりは、むしろ思い切ってそこは回避するという選択も必要かと思う。

学務課 実際子どもたちをどこに通すかというのは、最終的にその道路の状況や交通の状況などを踏まえてのこととなる。そのため、規制ができるできないの前提はあると思うが、今後、警察と相談をしながら、その結果を随時共有し、最終的な決定に向けて取り組んでまいりたい。

委員 先ほどの委員の発言に付け加えさせていただきたい。その道は、朝7時から9時まで、日向台の交差点から町田第三小学校方面に行く片側が規制され、通れなくなっている。しかし、珈琲店の交差点のところから来る車の規制はないため、子どもたちが歩く側の車の交通量がとても多く、反対側の車線の車は少ない。子どもの進行方向に対するように車が多く走ってくるという状況になっている。

新たな学校推進課 整理すると、日向台から町田第三小学校方面に来る道が、日向台側から、地図で言うと下から上に向かっていく方向は規制がかかっているが、上から下に入ってくるほうは規制がなく通行できる。子どもたちの流れとしては、町田第三小学校の子が下から上に動いていくので、規制がなく通行してくる車の進行方向とバッティングする側に子どもの歩く流れがあるということになる。

学務課 そういった車の流れも踏まえ、検討を進めていく。規制の実現はハードルが高いため、まずはそういった状況があるということを警察と共有し、何ができるのかというところの検討を進めていく。

委員 今、町田第三小学校に通っているお子さんは、この道を通っているのか。

委員 私の子は通っている。

委員 団地のほうから来る子、書店のほうから来る子は、日向台住宅の中をってから通りに出て、歩道を歩いていくため、最終的にはなかよし橋を渡る。そこに信号があるため、なかよし橋のところの信号を渡る。その逆から来て渡る子もいる。

一方で、基本的にひなた村方面の子は正門に入るような通学路になっているため、大通りを行く。

委員 本町田ひなた小学校の新校舎は北のほうになるため、地図上で上側に行く子が多くなるかと思う。そのため、日向台方面からくる子も、もしかしたら水路沿いを通りたくなる可能性があるということですよ。鎌倉街道を通って離れ気味に行くのではなくて、近い水路沿いを行きたくなる可能性があるということですよ。

委員 その通り。私もそこを行ければ、そのほうが近い。

委員 子どもの気持ちになると、やはり少しでも近道をしたい。そのあたりを酌んでほしい。

学務課 距離をどうするかという考え方もある一方で、安全も確保する必要がある。距離が近くて安全が確保できることが一番だと考えているが、距離を優先するあまり、安全をないがしろにはいけないため、そのバランスも考えながら調整し、対策を進めていく。

委員 規制はハードルが高いというのは、具体的にどういうことか。

学務課 規制というのは主にスクールゾーンを意味している。スクールゾーンにする際には、まず沿道の住民の方、場合によっては地域の方の同意が必要になる。仮に同意が得られた場合には、公安委員会で規制を実際にかけるかどうかを判断し、最終的に警察でかけることになる。

スクールゾーンの規制がかかった場合、時間帯で通行が規制されるため、沿道に住んでいる方については通行許可証を警察に取りに行く必要がある。その通行許可証がないと、たとえ沿道に住んでいても取締りの対象になる。そういった不利益も踏まえて、同意が取れるかどうかという部分で、非常にハードルが高くなっている。

(2) 町田第三小学校の歴史の継承について

新たな学校推進課 (資料2-2説明)

(3) 町田第三中・山崎中統合新設中学校意見交換会について

新たな学校推進課 (資料2-3説明)

(4) 子どもたちと進める新たな学校づくりの取組について

新たな学校推進課 (資料2-4説明)

(5) 学校や児童の様子について

委員 まず、本町田ひなた小学校について説明させていただく。

4月当初、統合したということで、私も教員も、そして子どもたちも、始業式のときはとても緊張していた。クラスの名簿をもらって並んでも所在ないだろうと思い、旧本町田東小学校の子どもたちと、旧本町田小学校の子どもたちにまず別々に並んでもらい、元の担任が新たなクラスに連れて行って並べる、ということから始めたのを懐かしく思い出している。

その中で、先ほどの学校教育部長の言葉にもあったとおり、縦割り班活動など、全学年が1つの班に所属している、みんな仲間だということを意識していた。また、6年生が1年生のお世話をするのであれば、5年生は3年生を、4年生は2年生をとという形できょうだい学年、もしくはペア学年と呼んでいるが、そういった中での交流をどんどんやっていった。ペア学年の交流を1学期から始めているため、10回くらいやっている。5年生がスキー教室に行く前に、3年生が一人一人5年生にお守

りといって、言葉と名前を書いたカードを渡していた。それを5年生全員がかばんにつけ、「これは3年生からもらったんだよ」と自慢げに言っていた。また、カードを受け取った5年生が「スキー教室に行くときに何か恩返ししなきゃね」と言っていた。「でも、来年行くのは4年生だよ。では、3年生にはどうしようかな」と考えていた。そういうふうに、3年、5年のペア学年の交流や、心の広がりも他学年にも広がっており、それが縦割り班活動の中でも広がっているということを実感している。

先生方と目指しているのは、6年生を送る会の際に、言葉では「6年生のお兄さん、お姉さん」と言うが、その子にとっての6年生のお兄さん、お姉さんはお世話になったこの人です、というような、目がずっとそのお兄さんなり、お姉さんにくぎづけになり、もしかしたら固有名詞すら呼んでしまうような、そういう仲間になればという思いでやっている。

今子どもを見ていても、統合校というよりも、本当に本町田ひなた小学校の子どもだと、この間先生とも話をした。

今週、町田第三小学校の3年生と本町田ひなた小学校の3年生がオンラインでつながってクイズを出し合う交流をやっている際に、手を振り合っとても仲が良く、楽しみにしている様子だった。このような交流に、計画的に大人のほうが、来年度、再来年度、旧本町田小学校と旧本町田東小学校がやってきたような交流を加えていけば、早くおいでよ、待っているよ、と、子どもたちが楽しみに待ってくれるかと思っている。

少しの差を違いに感じたり、違いを差と感じたりして仲間外れにするのではなく、もともと大きな違いのあるところと突き合わせることによって、自分に何ができるかということを考えさせることを一番大事にした。楽しむために、子どもが一番苦手としている我慢や、遠慮、譲るということ、自然と子どもたちの交流の中に築いていくことを目指している。

今日はオリンピックの関根花観選手が来校し、1時間目が講演会、2時間目は6年生の走り方教室、3時間目は5年生、中休みは1・2年生が習う。関根選手は大変だが、全学年を相手にしてもらい、何か1つのことをみんなで共有するということ、を大事にしている。

子どもであるため、いろいろなところで皆さんのお力添えや、いろいろな子どもたちの失敗で地域の皆さんに迷惑をかけることもある。しかし、子ども一人一人を見ていると、着実に本町田ひなた小学校の子として成長しているということを日々実感している。

何かあれば、学校はいつでも公開しているため、委員の皆様であれば、この日に見たいと言っただけならば、いつでもどうぞと思っている。私たちにとって自慢の子どもたちであるため、いつでも来ていただければと思う。

委員

町田第三小学校の子どもたちも元気に過ごしている。11月頃、クラスによってはインフルエンザで学級閉鎖になったが、今のところ、どのクラスの子どもたちも元

気に過ごしている。ついせんだってまでは長縄を頑張っており、どのクラスも声を掛け合い、励まし合いながら飛んでいる姿が非常に印象的だった。

先ほどお話があったが、今週の火曜日、リモートでの両校の子どもの交流授業を行い、本当にやってよかったと思っている。どのクラスでもクイズの形を取ったが、まず自分たちの学校のことをしっかりと本町田ひなた小学校の子どもたちに知ってもらい、そして、本町田ひなた小学校がどんな学校なのか、どんな子どもたちがいるのかを知るという目的で取組んだ。

自分たちの学校を人に紹介するとなると、知っているようでいて、やはり調べないといけないということで、この取組に向けて、子どもたちはいろいろと下調べをしていた。その中で、町田第三小学校について3年生の子たちが改めて気づくことがあるというのも、非常に貴重な機会だったと思っている。職員室に尋ねに来る子どもたちもおり、子どもたちも、本番に向けて準備を非常に楽しみながら取り組んでいた。

そして、やはり大人と違うと感ずるのは、大人は、例えばメリット、デメリットという考え方で物事を考えていく特徴があると思うが、子どもたちは、言うなれば期待と不安のような、楽しみだが、心配もあるというところがどの子にも大きくあるかと思う。しかし、ただ漠然と本町田ひなた小学校の子たちという捉え方から、顔も分かる、声も分かる、そして、交流を通じていろいろなことが分かることで、本当に期待が形になり、不安がだんだんと解消され、子どもたちは1つの経験、2つの経験で飛躍的に高まっていくということを、目の前でその現実を確認できた非常にありがたい取組だったと思っている。

一足先に統合を経験している本町田ひなた小学校の皆さんは、やはり同じように1年前は期待と不安があったと思う。しかし、統合してみて、こんなよさがあるよということを本当に身を持って訴えてくれ、そのことが、大人が説明する以上に子どもたちには響いたと思っている。

また、今回は本校のMNE公開の日に合わせてくださったが、次回は本町田ひなた小学校のMNE公開の日にもう1回やろうと約束をして別れた。こういった取組が3年生にとどまらず、来年度はいろいろな学年でしっかりと取組み、どの学年の子どもたちも関係を深めていけるようにと考えている。

この1つの取組をとっても、子どもたちの安心をしっかりと固めていくということが大切だと私たちは実感しているため、引き続き両校の教職員でスクラムを組み、来年度、一層活発に児童の交流を深めていきたいと思っている。

委員

先日、地区委員会で、統合してから1年もうすぐたつということで、本町田ひなた小学校の学校の様子は校長先生たちからお話を聞いているが、まちともや学童などのこともやはり知りたいと、本町田ひなた小学校の学童とまちともの方に来ていただき、統合してからの学校の様子などを話してもらった。その中で、お互いのもともとのルールの違いからトラブルになることが多いというお話をされていた。交流していく中で事前に、例えばうちの学校は今こういうのが禁止だよ、そっちは禁止じ

やないのなど、そういったことも具体的に子どもたち同士で話し合い、何で禁止なんだだろうねというような視点を持ち、こういうやり方だったらうちだったら大丈夫だよみたいな話が事前にあると、もう少しスムーズに行くのではないかと感じた。やはり5・6年生など、もとの学校のやり方で長く過ごした学年ほど、違うルールになった際に戸惑い、何で駄目なんだよ、というような形で不満が出てきてしまうのではないかと思う。5・6年生はそういった討論ができてくる学年だと思うため、そういうものが事前にあると、もっとスムーズに行くのではないかと思う。

また、町田第三小学校の竹ん子学童保育クラブ、学童の先生もお話をしてくださった。旧本町田東小学校から来た子が数名いるが、子どもたちにもいろいろ負担をかけてというような言葉があった。新しいことに取組む際に、やはり子どもたちもいろいろ負担に感じたり、我慢したりすることがあるという視点が私たちは抜けてしまうのではないかと思う。一緒になって楽しく頑張ろうという気持ちだけでなく、戸惑いや、おかしいと思うことや、いろいろなことを感じながら子どもたちが取組んでいるということも、心に残しておかなければいけないと思った。

委員

1つ付け加えさせていただくと、学校同士、旧本町田小学校と旧本町田東小学校の学校生活は煮詰めることができた。しかし、まちとも、学童、学校は全て別組織になっている。また、まちともと学童のルールも異なる。学童は旧本町田東小学校でやっていた学童の人たちが、今、本町田ひなた小学校の学童を運営しており、まちともは、旧本町田小学校で運営していた人たちが本町田ひなた小学校のまちともを運営している。そのため、細かいところでルールが異なっている。そういう部分を統合に向けては徐々に徐々に年月をかけてできればいいと、統合して初めて知った1つであり、次回に生かしていきたいと思っている。

委員

町田第三小学校のまちともと学童もルールが違う。そのため、学童は月謝を払うような組織であるため、おやつも出るなど、学童には学童のルールがあるからねと子どもたちに伝えている。

委員

元いた組織は元のルールでやりたいというのが正直なところだが、新たに来た組織は、新しいところでのルールをきちんとつくりたいという思いがあるかと思う。しかし、新校舎に行く際には全ての人が新しい校舎であり、新しい校庭であるため、今回のようにどこかを間借りするような形でやることはないだろうと思っている。

必ずルールの確認をする場を持たないと、今度はそれぞれが困ってしまうだろうと思うため、そういう場は必要だろうと今から考えている。

委員

この場で質問する内容というよりは、全体を通しての質問だが、2月の市長選は何か影響があるのか。この大きな事業にはどの程度の影響度があり、変わっていく、あるいは、そのまま継続されるのか。一度可決されたものが、市長、トップが変わったことによって変化することはないかと自分自身思っているが、何かあれば教えてほしい。

新たな学校推進課 こういったお話は、他の方からもいただいている。私どもは、この新たな学校づくり推進計画が計画として残っている限り、しっかりとこの計画のとおり、今後も進

めていきたいと考えている。

また、この方針が変わる際には、議会に対しても説明していくことになるが、皆様に対しても説明をしていく。現在のところの回答としては、この計画はしっかりと進めていくという回答である。

3 その他

(1) 2026年度推進協議会について

新たな学校推進課 (資料3説明)

4 委員挨拶

委員

本町田ひなた小学校の3年生に子どもがいる。

先ほど本町田ひなた小学校の先生からも話があったように、5年のスキー教室について子どもが、「今日帰ってくるんだよ」、「今5年生はスキー教室でいいな、温泉に入っているのかな」、「ご飯はどういう部屋で食べるのかな」などと話しており、とても興味を持っていた。3年生同士の交流について、詳しくは知らなかったが、本町田ひなた小学校のクイズをつくっていることは聞いていた。「校長先生の声が体育館に大声で響く」というのが正解の問題をつくっていると、とても楽しそうに話していた。

6年生のときに新校舎になるため、バスで行ってみたいと言っていた。遠いため、親としては登校が不安だが、「バスに乗って友達と学校に行ってみたい、今バスで来ている子はいいな」と言っている。前向きな気持ちをたくましく見つつ、大人たちは安全を守れるように、ここでの議論に私も続けて参加したいと思っている。

委員

今年度初めて保護者組織の役員をやらせていただき、この会議に参加した。市の方々の考えや、地域の方々の思いなどをお伺いすることができ、とても有意義な時間を過ごせた。4年生と、来年1年生になる子どもがおり、当事者として通学路などに関心が深いため、今後も1人の親としてできる限りのことをしていきたいと思っている。

委員

4年ほど新たな学校づくりに関わっている。本町田ひなた小学校が統合し、今、保護者組織を本町田ひなた小学校の保護者を中心に立ち上げているが、本当にとっても大変。保護者組織を一から立ち上げるということがどんなに大変かというのを、町田第三小学校はまだそこまで入り込めていないため、夜な夜な資料を作成するなど、本当に申し訳ない気持ちでいっぱいになっている。先ほど校長先生方がおっしゃっていたように、子どもたちは、2校がすぐに仲よくなれるような努力をしているのに、保護者のほうが人見知りのように思う部分が多くある。

コロナ禍以降、便利になった部分もたくさんあるが、触れ合うことが本当に少なくなった。私の子ども時代などは親子行事が多く、親が入り込むことも多いため、横のつながりも多かった。統合した暁には、より保護者を巻き込めるような環境になるといい。保護者がつながることでトラブルも起きるとは思うが、思い込みや勘違

いが多いと思うため、保護者も楽しく子育てでき、困っている人がいたら手を差し伸べられるような保護者関係を築いていけたらいいと思っている。

あと2年と本当に間近になっているが、子どもたちの安全はもちろん、これだけの方が関わっているということ子どもたちにも伝えつつ、新しい学校に希望を持ちながら過ごしていけたらいいと思っている。

委員

この間の学校公開で、3年生の私の子どもが、本町田ひなた小学校の3年生の子とオンラインでクイズを出し合っていた。まず画面の前に立ったときに、誰々だ、誰々だと相手の名前を言っていることに、そんなに知り合いがいるのかと驚いた。サッカーなどの習い事でのお付き合いだと思うが、まずそこに最初に驚いた。

3択クイズを町田第三小学校の子たちも本町田ひなた小学校の子たちも、考えてきたものを出すという形だった。町田第三小学校のキャラクターのモチーフは何でしょうというクイズに、①タケノコ、②梅、③あんぱんと出した際に、本町田ひなた小学校の子たちが「町田第三小学校は竹、竹藪、タケノコだ」と、早い段階で、「じゃ、もう①番、タケノコ」と言っており、町田第三小学校のことを周知してくださっていることにとっても驚いた。緊張するというよりは、和気あいあいとやっていたため、驚くとともに、ほっこりした気持ちになった。

そんな子どもたちの顔を見て、私もこの新たな学校づくりに携わることができ、とてもよかったと思っている。

委員

新たな学校づくりには最初から関わっており、5年以上、かなり長く関わっている。その中で一番大事なことは、児童の通学路の確保。安全対策についていろいろ協議をしてきたが、ここ1年通して、何事もなく経過したということが一番大事だと思っている。

その思いで関わってきた中で、もう少し子どもたちに教えなければいけないことは、交差点内の行動。予期せぬ行動をするため、旗振りをしながら見ているが、この間、反対方向に、1年生3人が藤の台側の横断歩道を駆け足で渡ってしまった。少し危ない行動だと思い、3人になぜそういう行動をするのかと少し怒ってしまった。予期せぬ行動は事故につながるため、校長先生を含めて教職員の方もそういった指導に引き続き取り組んでほしい。

孫が今年1年生であり、本町田ひなた小学校に行ってほしかった気持ちはあったが、住まいから近い藤の台小学校に通っており、残念に思っている。

委員

新たな学校づくりに最初の頃から関わっており、校歌を決めるなど、いろいろ経験させていただいた。無事に統合し、進んでいることがとても素晴らしいことだと思っている。

子どもたちが6年、4年、1年におり、6年生の子が一番心配だったが、今一番なじんでおり、本当に統合してよかったということ子どもたちの口から聞いている。今までの自分を知る友達がいなくて、新しい自分になることができ、友達も明るく、先生方もとても配慮してくださり、こっちに来てよかったと最近毎日言っている。中学校は薬師中学校に進むが、ほかの子たちはみんな町田第三中学校。自分で決め

たことではあるが、「ああ、町田第三中学校に行けばよかったかな」と言うくらい、統合で新しい自分になることができ、今まで1クラスしかなかったところから、1組の子もいて、2組の子もいてという環境にとてもメリットを感じている。

影響は本当に子どもによりそれぞれで、4年と1年の子は極度の面倒くさがりなこともあり、学校の距離が遠いことにとても苦戦している。学校に行くこと自体に苦戦している日もあるが、1年の子がバスで今通っており、バスの乗り方はばっちり。毎日通って乗り方も降り方も分かっており、困ったときにどうするかも分かっている状態になれたというのは、歩いて通っていたら気がつかなかったことだと思う。夏休みも1人で習い事からバスで帰ってくることもできるようになったため、バスは不安も多いと思うが、チャンスと捉えて、みんなできるようになるよと、これからバス通学される保護者の皆さんには伝えたいと思っている。子どもはできるようになる。

それに伴い、見守ってくださる方がとても多い。バスの乗るところも降りるところも、いつも見守ってくださっていることがすごく安心感につながっている。バスに関して言えば、早く学校に到着してしまうが、学校がバスの時間に合わせて体育館を開放してくださっているなど、そういった細やかなところで子どもの居場所をつくってくださっていることがとても安心感につながっている。学校も見守る大人も、親としても一生懸命いい形をつくっていているのではないかと感じている。

また、新しい保護者組織をつくるというところが、当初の予定より大分ゆっくり進んでいる。来年度くらいから本格始動し、保護者としても関わりやすくやりたいことをやり、学校も手が欲しいときに助け合えるような形を目指してやっていきたいと思っている。

委員

町田第三小学校を自分自身が卒業し、子どもも卒業し、そして今、孫が6年生でお世話になっており、孫の代で統合ということになった。これはもちろん初めての経験で、子どもにとってはいろいろな場面で、僕の学校はこうだった、私の学校はこうだったということがいろいろと出てくると思う。しかし、先ほど校長先生がお話した譲り合う気持ち、そして新しいルールに馴染むこと、このようなことの場面に子どもたちが当たるのが、成長する場面ではとてもよかったのではないかなと思う。

このようなことに対しての場面を自分に与えられたことの幸せ感を、今は思わないかもしれないが、大きくなって、成長した際に、こういうことがあったんだよ、と話すことができるのではないかなと思う。

そして、町田第三小学校のお子さんたち、本町田ひなた小学校のお子さんたちの交流をこれよりも含めていただき、学校に楽しく通い、そして交通面でも無事に通学できる、その方面のことをもう少し煮詰めていきたいと思う。

委員

いつも地区委員会でも地域として学校に何ができるかというのを中心に置いて考えている。これから3つの学校が1つになった際に、範囲がとても広くなる。例えば今、旗振りをしている方も、自分の家から遠くなってしまうと熱量が下がるようなことがどうしてもあるため、そういうことがないように巻き込みながら、新しくな

った学校のいろんな状況にみんなが合わせて、さらにもっと仲間を増やして、子どもたちの安全を地域で守ろうという気持ちになれるような協力がしたいと思っている。本町田の学校であるため、本当に本町田という地域に子どもたちが愛着を持っていろいろな思い出をつくっていきけるように協力していきたいと思っている。

委員

新たな学校づくりに携わって2年から3年目になるが、本当に新しい学校を立ち上げるということがこんなに大変なことなんだと感じている。そしてまた、逆にみるとすばらしいことだと思っている。今、私は幼稚園に勤めており、新しくできる旧本町田東小学校の跡地、本町田ひなた小学校が移転してくるところを毎日見ている。今は、こんなに広い敷地だったんだと驚くほどの、ほとんど何も無い真っさらなキャンパスのようになっている。その真っさらなキャンパスの中にこれから一つ一つ絵を描くように校舎が基礎から出来上がっていく、その姿を毎日見るのを非常に楽しみに思っている。

学校統合というのは、50年から100年に1回あり得るかないかのことであり、このような大きな変わり目に立ち会えたということ、非常に光栄に思っている。

そしてまた、そこに住む人たちの共通なこととして、子育てという、そこに住んでいる人が誰しも実際にやっている、また体験していることの中心であるのが小学校、中学校であると思う。特に小学校は地域の中に根差しているため、その小学校が中心になって、みんながどういふ小学校をつくるかを考え、共通な子育てというものを考える中心になっているのが、この会だと思っている。地域の結びつきというものがだんだん弱まっている中で、子育てするものの結びつきを強める拠点になるような小学校をつくり上げられたら、また、その一助になればいいと思っている。

委員

最初の旧本町田小学校の時代から新たな学校づくりに関わっている。統合して丸1年になるが、ほぼ毎日のように何となく見ている中で、特に休み時間、全く今までと変わらずというふうに見える。遊びは1人ではできないため、何人も一緒になってやる、これがもう楽しく、お友達がいれば楽しさというのはさらにとということになるが、そういう感じが、ガラス戸越しによく見える。1年間、非常によかったと思うため、これからも2年目、3年目と、ますます仲よくなってもらい、新しい校舎になればいいと思う。

別件で、通学路がどうしても狭いという心配がある。町田第三小学校に行く子を車で見かけるが、子どもたちは2列、あるいは3列になっている。前から人が来たらよけるが、狭いのはやむを得ないかと思っている。

もう一つ、バスについて、この時間を過ぎたら30分、40分待たなければ次のバスが来ないということだけは少し心配に思っている。しかし、このバスを逃さないように、これに乗るようにと放送してくれており、まとまって帰っているため、帰る姿は決して悪くなく、きちんとバスも乗っているように見受けられる。

1年間外から見て、よかったと感じている。これから先、さらにまた変わっても、いいことにつながるのではないかと思っている。

委員

昨年度、まだ統合する前の4月に旧本町田東小学校の保護者の方々を対象に学校

公開を行わせていただいたのを今思い出している。その際、旧本町田東小学校の保護者の方に何名もいらしていただき、いろいろなご不安を口にされていた。我が子のことであり、ほぼすべてが分からないことであるため、当然だと思う。我々教職員も大人だが、今年度の4月を思い出し、不安感はなかったかと言われると、それはうそになる、やったことがないことであるため、絶対に不安はある。

しかし、それ以上に子どもたちのために、校長先生をはじめ集ってきた教職員であることは間違いない。そのため、我々が不安な思いを抱えたまま子どもたちの前に立つのは駄目だと、旧本町田東小学校の先生、旧本町田小学校の先生、他市、他区からいらした先生ということではなく、新しい学校に来て、目の前の新しい子どもたちに出会ってこれから1年スタートするんだという気持ちで今年度の4月をスタートできたことが何よりよかったと、1年を振り返って思っている。

その中でも、先ほど話にも出たように、学童とまちともが違うなど、やはり細々したことはある。まちともでも、昨年度のうちから旧本町田東小学校と旧本町田小学校のまちとも同士の中で話合いがもちろん行われていた。しかし、統合してみないと分からないところは正直ある。

我々が前向きにいるということが何より一番大事なことだと、4月に統合してからを振り返って思っている。来年度、私ももしここに残れるのであれば、引き続き今年以上に前向きに子どもたちを見て、先生方と一緒に、校長先生を中心に組み込んでいきたいと思っている。

最後になるが、やはり地域の方々のご協力なしに、この新校のスタートはできなかったと改めて感じている。朝夕の登下校の見守りや、本町田地区青少年健全育成地区委員会を中心とした子どもたちのつながりが、ひなた村でのイベントを通してあることで、先ほどのオンラインでの3年生の交流の際など、あっ、誰々、というような姿を私も多く見ている。地域の方々の協力があって、そういった機会があることが間違いなくこの統合にとってプラスになっているということを本当に痛感している。引き続き地域の方々のご協力もいただきながら、来年度以降、一步前進の本町田ひなた小学校になっていけばいいと思っている。

副会長

委員の皆さんの様々な思いのこもったご意見、ご提言、非常に学びになった。今後、26年、27年と28年度の統合に向けて何をなすべきかということをしかりと自覚する上で大変参考にさせていただいた。

先ほど、学校の様子について1点言い忘れてしまったが、芸術祭の際にもブースを構えて展示されていた、チーム本町田の皆さんから6年生の社会科の授業をお手伝いいただけるというお話をいただいている。何度か打合せをして来月中に実践できるめどが立ち、非常にありがたく思っている。地域について学ぶ上でこの上ない味方を得た気持ちでいる。

この取組をぜひ今年限りではなく今後の地域学習、本町田の学習ということで、町田第三小学校がなくなった後もつなげていけたらと思っており、そのまず一里塚として今年度の取組をしかりやっけていきたいと思っている。もしその内容につい

てご報告できる機会があれば、またお話ししたいと思う。

これはお知らせになるが、前回少しお話しした町田第三小学校の安全委員会、第2回目を2月18日の水曜日午前10時から本校で実施する。特に事前に参加の申込みは必要ないため、関心があれば、当日、直接本校にお越しいただきたい。今回は町田警察署の交通課の皆さんもご参加いただけるため、お時間の都合がつけば、よろしくお話ししたい。

先ほどまでのお話を聞いていて私なりに思っているところは、違う組織が1つになる際には、当然いろいろな、金魚の水槽に水を足すと、1回汚れるように見える部分があると思う。例えばルール、決まりのことで言えば、同じルールで100%やっている組織は絶対ないため、その中で私たちは、特に子どもたちが相手であるため、何でこのことがいけないのかということを考えさせることがとても大事だと思う。

ただ単にルールだから守るんだよと、守らせることも大事だが、なぜ守らなければいけないのかということをお子さんの頭で考えられる子どもを育てることができれば、たとえ違う文言であったとしても、そういうルールに出会った際に、自分の頭で考えて、こういうことだから駄目なんだということをお子さんが自分で判断できれば、多少の表現の違いは乗り越えていけるのではないかなと思う。また、それに耐えられる子どもたちを育てていくことが大事だと思う。

また、町田市の小学校はコミュニティスクールであり、地域の拠点を狙っている。先ほどもお話があったが、子どもが育つ場であるとともに、子どもを育てることを手伝っていただくことを通して、大人の皆さん、地域の皆さん、PTAの皆さん、保護者の皆さんもつながりを広めていただく、そういう目的を持っている場所。そのため、こちらからのお願いに答えていただくだけでなく、遠慮なく皆さんのメリットも感じていただけたらと思っている。また次年度以降も、ぜひよろしくお話ししたい。

会長

統合をさせていただいた学校であるため、皆さんから不安や、子どもの姿から質問が生まれていいと思う。もともと旧本町田小学校にいた保護者の方々は校舎も変わっていない、友達もあまり変わっていない、という中で、ルールが変わったということ、学校ががらりと変わったと言っている。しかし、そこを私たちは一丸となって、新しい学校になったんだから当然だと思いたくということをやっている。だからこそ、ルールを引き継ぐというよりは、いいものをくっつけ合うようにしている。しかし、くっつけ合っても限界があるため、新たなものを生み出すことになる。

町田第三小学校の子どもたちや保護者の方には、今の子どもたちの姿を私たちが包み隠さず見せていこうと思っている。それで安心していただき、本町田ひなた小学校にお子さんを通わせている方々については、目の前の子どもたちが困っていたり、楽しんでいたりというお声を寄せていただき、さらに充実させていきたいと思っているため、今後ともよろしくお話ししたい。